



みんなで支え合う社会をめざして

バトトル ナドミド
BATTUR NADMID

私は二歳の時から、親切でやさしい祖母と一緒に住んでいました。祖母は生まれた時から耳が聞こえません。祖父は私が一歳の時に亡くなりましたが子供の時に病気にかかり 祖母と同じように耳が聞こえなくなりました。だから私にとって、体に障害を持った人は、いつも身近にいました。

私が子供の時は、祖父母のような老人は耳が聞こえない事が当たり前だと思っていました。成長するにつれて祖母は普通の人とは、少し違うと思い始めると同時に、祖母と一緒にいると他人から何か笑われていると感じるようになりました。他にも祖母が困っている時、私が通訳すると何か嫌な目で見られているようで、他人の視線をととても感じるようになりました。

しかし、七歳の私はある日の出来事をきっかけに、そんな事は一切気にしなくなりました。その日は、祖母と初めて行った手話サークルのクリスマス会でした。壁がきれいに かざりつけられ、大きなツリーが立てられ、テーブルにはおいしそうなおかしが置かれ、たくさんのおじいさんとおばあさんと子どもたちがいました。参加したほとんどの人達は、耳が聞こえない人や体に障害を持った人でした。私は、こんなにも障害を持っている人がいるのだとおどろきました。クリスマス会では、ジェスチャーゲームをしたり、クイズをしたり、劇をしたり

して、とても面白く楽しい時間を過ごす事ができました。劇を見て、一緒にゲームをして分かった事は、障害があるからといってできないと決めつけるのではなく、その考え方をなくしていかなければいけない事です。もし私だけが耳が聞こえて他の全ての人の耳が聞こえなかったら、私が、障害があるとみられます。このように自分たちより、少人数の人間をおかしいと思う事が間違いであると気付きました。それからは、祖母と一緒にいても他人の視線や嫌な目で見られていると感じる事はなくなりました。皆さんは、障害があると、「きっとできないだろう」と考えてしまう事が多いと思います。

「できないだろう」ではなく、私達は障害を持った人でも「できる」方法を考えていく必要があります。少しの手助けや手話などを使えば、障害に関わらず「できる」ようになると思います。自分とは違うから知らないふりをしたり、変な目で見るのではなく、お互いが歩み寄り、お互い知る事が必要です。

みんなが手を取りあって支え合う事ができれば誰もが「できる」社会環境になるのではないのでしょうか。

私は障害を持った祖母のような人々でも生活しやすい社会を作っていきたいと思っています。

受賞の喜び



バトウル ナドミド

国 籍 モンゴル
職 種 機械検査
実 習 実 施 者 藤田螺子工業株式会社
監 理 団 体 九州ネット協同組合

JITCOの作文コンクールに挑戦するのは、今回が3回目でした。今回は最優秀賞を受賞出来て本当に嬉しいです。

私に色々な事を教えてくれた藤田螺子工業株式会社、九州ネット協同組合の皆さん、ベウラLLC送り出し機関、また日本で一緒に実習した仲間達に感謝の言葉を伝えます。「ありがとうございました」私を応援してくれる人がいるから今の私がいと思っています。皆さんと良い思い出を作って、毎日楽しい時間を過ごしました。

今回、日本に実習に来る事が出来た事は私にとって大きな転機であり、日本語の勉強をしながら日本の文化や社会生活について学んだ事は大きな成果となりました。

3年間よいことばかりではなく悲しい出来事もありました。とても優しく、親切だった祖母は、私が実習を始めた1年後に亡くなりました。家族から遠く離れたこのあいだ祖母のためできる事はこの作文でした。私の言いたいことが祖母のように困っている人を助け、差別のない社会となる事を願って私の思いを書きました。今回の受賞は祖母も、とても喜んでくれていると思っています。

指導員のことば

実習生として同じ職場で働く中で、少し体が弱いイメージのあるナドミドさんでしたが、仕事に取り組む姿勢は真面目な子でした。

モンゴルにいる家族を想いながら、毎日の実習に取り組むことを知っていました。

そんな彼女のやさしさがあふれる作文に心を打たれました。

藤田螺子工業株式会社 製造部 岡田 将伸